

寫眞週報

編輯部報情閣内  
第七十・號二廿第・日三十月七

傷兵の職業補導  
練習艦隊歸る



# 白衣をすすて



内閣府が主催



## 合同スポーツタスク案懸賞募集

週刊眞寫報



愈々締切

本報及び「週報」が、内閣情報部から姉妹誌として編纂・発行されてゐること、普及徹底させるため両誌合同のポスターを左記規定により懸賞募集する。

一規 定

募集：「眞寫週報」「週報」の企画を一枚にて表現するもの

文法：内閣情報部編輯部  
字用：両誌のグラフィック

「眞寫週報」：一部十銭  
「週報」：一部五銭

色型：日本標準規格判B1判(縦一〇三〇×横七二八耗)五色刷以下

賞金：一等(一名)三百圓  
二等(一名)百圓  
三等(二名)五十圓  
佳作(十名)二十圓宛

締切：昭和三十三年七月十五日  
発表：同七月二十七日発行開始

（作風）使用ニ際シ多ク修正スルコトナラズ

（審査）内閣情報部

（郵送）切込料ニ付、且ツ「眞寫」ハ内閣情報部ニ郵送ス

（応募先）東京市麹町区永田町内閣總理大臣官舎内内閣情報部



## 傷兵の職業指導

あらゆる科擧兵が動員されてる立体的な近代戦に於ては、その必要力も又大きく、職業指導の重要性もあつて高くなるものとなつてを、今次戦争に於ても、幸い陸海軍の戦果の裏には決死のいくたび、ついに名譽の戦場を以て、故郷に歸還する白衣の勇士は、相當の數に上つてゐるのである。これらの傷兵のうちに、兵役免除となる人、これらは、傷兵院の外、増設施設、傷兵年金を給與、その職能にたつて將來の生活を保障することになつてゐる。全戦各地の海軍病院に收容された軍人は、復讐にむかふと同時に、一刻も早くその健康をとり戻して再び第一線に立ち、もし時はぬ時は、慰問などに従つて、國家社會に貢献しよう、といふ熱烈な決意を以て奮闘を感服させてゐる。

勿論、國家では、傷兵院が、社會人として立派に働けるやう、その職業に十分準備をはらひ、傷兵保護院を設け、職業指導、再教育に全力の注進を以て、積極的に、復讐能力の向上に努めてゐるが、傷兵院の保

護対策は、その間に當る官廳のたよつてはならぬ。當然、國民全體の責務として、上下聯つて、今次戦争の傷兵院で、働ける以外、また各地の海軍病院で加療中なので、本格的な再教育施設はなされてゐないが、傷兵院では、東京警成社代行大坂、福山には、道府には、一々團所つ小規模の施設をなす算だ、いづれも、依頼から具體的な活動に入る筈である。

傷兵院の人生再建に、新しい産業的職能の供給と作業用具の供給は、總務に必要であるが、それよりも先づ、復讐に必要とする國民一般の悪い念を矯正し、傷兵院が一生、その間に國家の誇りを保てるやうに導かねばならぬ。

アメリカのフォード自動車會社では、會社を社會の福利と考へ、當然、不具者も雇ふべきものとして、片腕でも出来る仕事に七百五十種、片腕で職能を得る職能が二千六百三十七種あり、その他百目の人にもそれ相當の職能が案出され、互ひに和らしく働いてゐるといふ。各産業管理は、近代産業の分業性を、傷兵院のために、十分利用すべく考案しなければならぬ。



### 機能回復療法

臨時東京第一陸軍病院  
臨時東京第三陸軍病院

□ ほど快癒した傷兵軍人は、機能検査を終ると、その結果に従つて、後療法で、神経障害その他の治療を受ける。機械治療室の運動器で、手の残存機能を回復させてゐる戦傷兵士。(第三)

□ 職業準備教育として、治療の合間に、智的教育、技巧教育(徒手運動、巧機運動)が施される。おなじみの巧機運動、子供にかへつて、無聊を慰めてゐる間、段々、指は弾く力を加へてくる。(第三)

□ なつかしい射撃練習も、巧機運動の一つだ。もう、引金も楽にひけるやうになつたが、再び戦場に立てない不自由な身體を、せめて、社會に在つて、銃無き英雄にならうと、一心に的を撃つ。(第三)



□ 神経障害、痲痺等は、水治療室で電気治療を受ける。頭痛、肩、腰に百貫銃剣を負つた勇士も、完備した設備、診察によつて、めきめきと、その健康を回復して来た。(第三)

□ ベッド生活の健康増進を兼ねて、徒手運動は朝のラジオ体操から始まる。屋上運動場で、さわやかな朝風に吹かれながら、南京の勇士も保定の戦士も看護婦さんと一緒に快い汗を流す。(第一)

□ 手の機能障害と同様、機械治療室には足関節輪軸があり自分でハンドルを廻す。足が上下左右にくるやうになつてゐる。機械の力で慣性を與へ、段々、自然に動くやうにする。(第三)

□ 巧機運動は、上肢運動(手、肘、下腕運動)、下肢連合運動(膝、股関節運動)があり、簡単な遊戯で馴らしてゆく。二輪固定自転車は、下肢障害者の爲に備へつけられてゐるが晴天の日には外で蹴球運動も行ふ。(第三)

撮影 梅本忠男





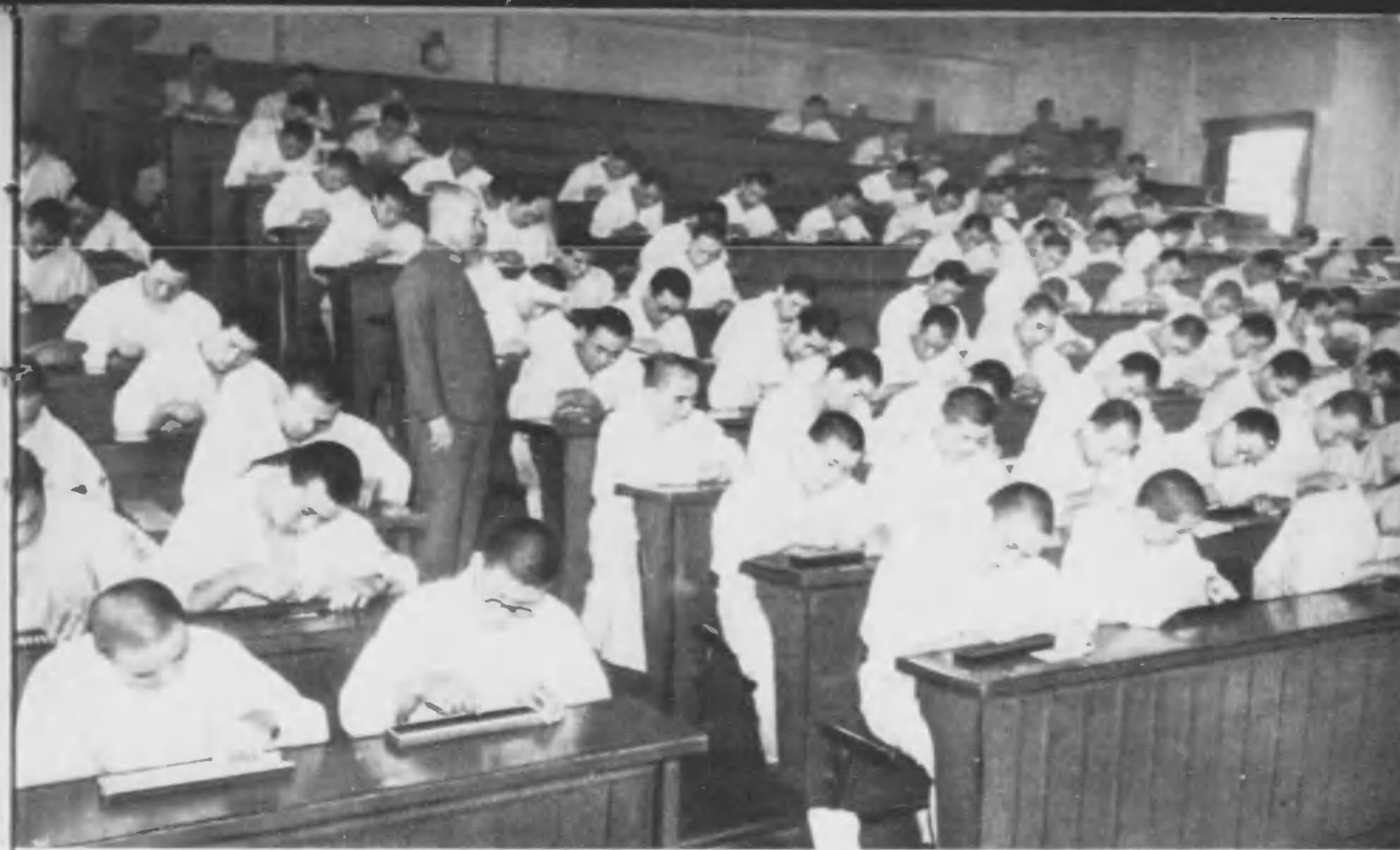
**基礎訓練**  
臨時東京第一陸軍病院  
臨時東京第三陸軍病院

療養生活中の慰安と教養を兼ね、又、除役見込者の手技訓練に資する為、それぞれ、適當の教師を招聘して繪畫、習字、簿記等を教へてゐる。(第一)

初めは、練一本彫るのも容易でなかつたが、今日この頃は、立派な鎌倉彫りが出来るやうになつた。技術が向上すると、のみみ操作も楽しみなつて、朝から皆一生懸命だ。(第一)

兩眼盲眼傷兵にとつて、音楽はまづ唯一の慰安である。病院では音響器、ラヂオを完備する他、希望によつてギター、尺八等の楽器に依る慰安を興へてゐる。(第一)

第一陸軍病院では、醫學的見地から慰安運動を奨励すると共に、臨床治療と連繫させて、將來の職業準備の指導を行ふ爲に、臨時特務委員会(慰安部、運動部、身上調査部、臨床機能検査部、職業部)を設置、治療指導に當つてゐる。算盤は社會に出てから何と必要だ。職業部員の指導で、自由な手を動しながら、熱心に練習する勇士達。



千五百餘坪の農園設計圖、傷痍軍人の八割を占めてゐる農村出身者の復興教育に資すべく、此處には養蠶、養魚、養豚場を設け、花壇と野菜畑もつくる計畫がある。(第三)

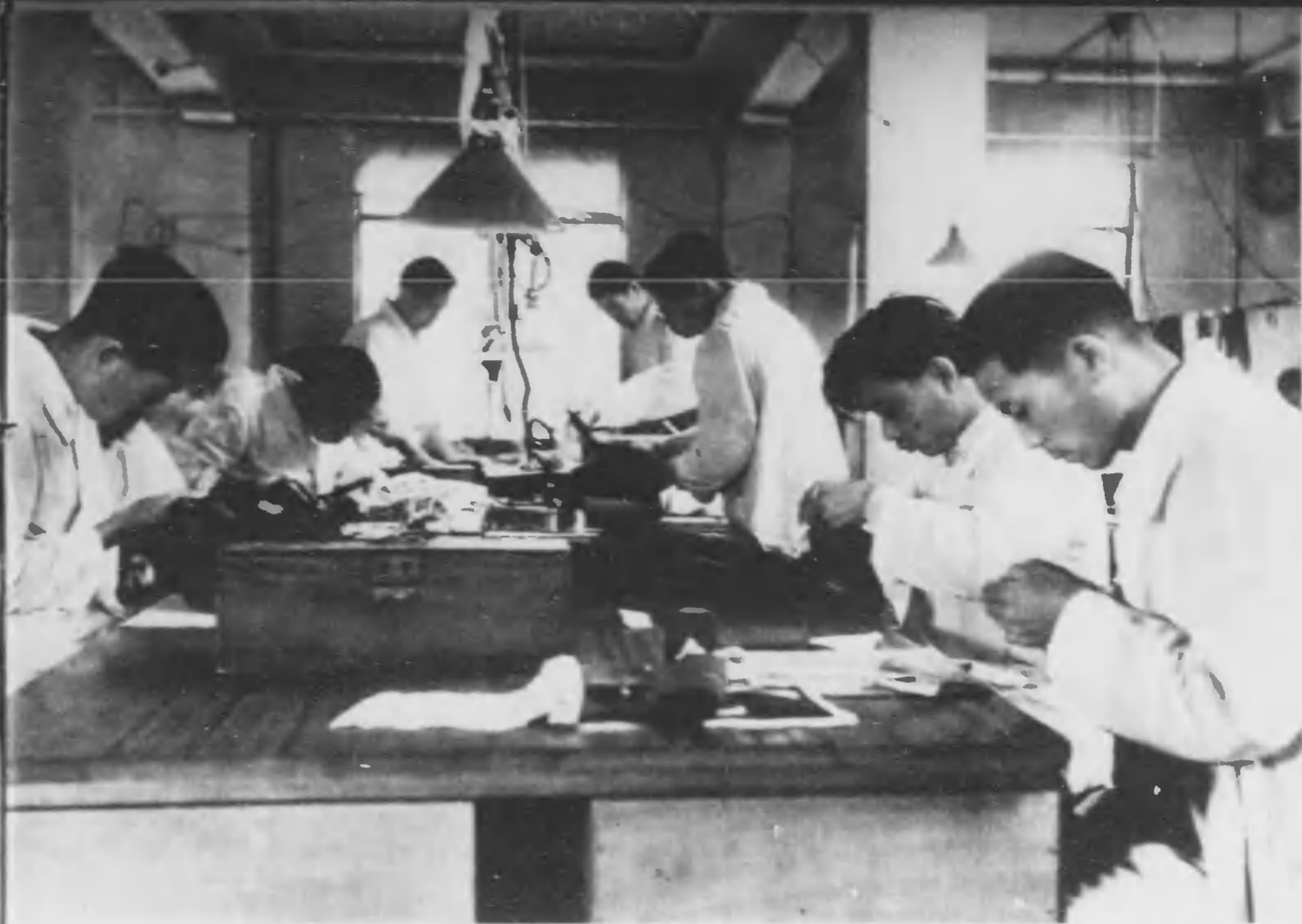


第三陸軍病院では、他の陸軍病院と違つて、看護婦さんが一人も居ない。此處では、機能検査、恩給診断、後療法、體力増強、職業訓練準備教育を行ふが主だからである。それだけに、この施設も異り、偉大な農園も出来つつある。徳米運動を兼ねて新農業者養成法を學びながらつくつた、トーチカ式養魚場で、錦々と兎に戯れてゐる戦傷兵達。

# 職業再教育

啓成社

国立再教育機関は大阪市及び小倉市附近に、今大きく建設の予定であるが、東京啓成社でも、今次事變關係傷病軍人を收容する国立再教育機関が建て増される予定である。現在同社の授業科目は、洋服科、ミシン裁縫科、婦人子供服科、家具科、縫工科、履物の六科目で、その他十二課目の委託教育を施してある。縫工科は、甲種は一年、乙種は六ヶ月で修了立派な職人になる。



職業能力回復事業の機関、財団法人啓成社は、大正十四年九月東京市豊島区西巣鴨二〇番地に設立され、いままで、再教育をうけた傷病軍人、産業戦線の犠牲者五百三十二名が立派に誕生してゐる。

婦人子供服科では、北支南支の戦禍で上陣、陣中に戦傷を負つた後井則一上等兵が、去る六月十日、今次事變關係初めて再教育者として入社、ボタンが六ヶから八ヶに増強してゐる。

啓成社で再教育をうけた満洲事變の勇士高瀬英四郎上等兵(31)は、旋盤工として、新人生のスタートをきり、東京板橋の田中鐵工所で銃後産業戦線の第一線に立つて働いてゐる。同上等兵は、左上肢、左胸部の貫通銃創により、左肩関節及び左肘関節の運動制限、左手筋力減退といふ後遺症があるが、仕事には何等の支障なく、月収は九十圓、妻いそさ(26)と幸福に暮してゐる。

## 人生再建

街の職場

小石川區大塚坂下町一八二に洋服店を開業してゐる加藤上等兵(35)も啓成社で再教育をうけて、成功した一人だ。同上等兵も、満洲事變當時新開地附近の戦場で、砲弾破片創をうけ、右手小指、中指の機能を失つたが、再教育により洋服屋さんとして更生、現在の處に開業、妻りつさん(24)と、弟と三人で、生活の再建に一生懸命である。

豊島區池袋四丁目、軍人床屋 鈴木理髮店の主人鈴木忠司氏(38)は、満洲事變當時航空上等兵として活躍、ついに右胸部に銃創をうけ、機能障害をこのとして除隊、その後啓成社の社外委託生として再教育を学び、現在の場所を開業したものである。同氏は語る。「幸ひ、お客さんの後援を得て、月百五六十圓の収入があります。傷病軍人でもその心構へ一つで立派にやつてゆきましょう。」



# 豪雨のなかの勤勞奉仕で建設

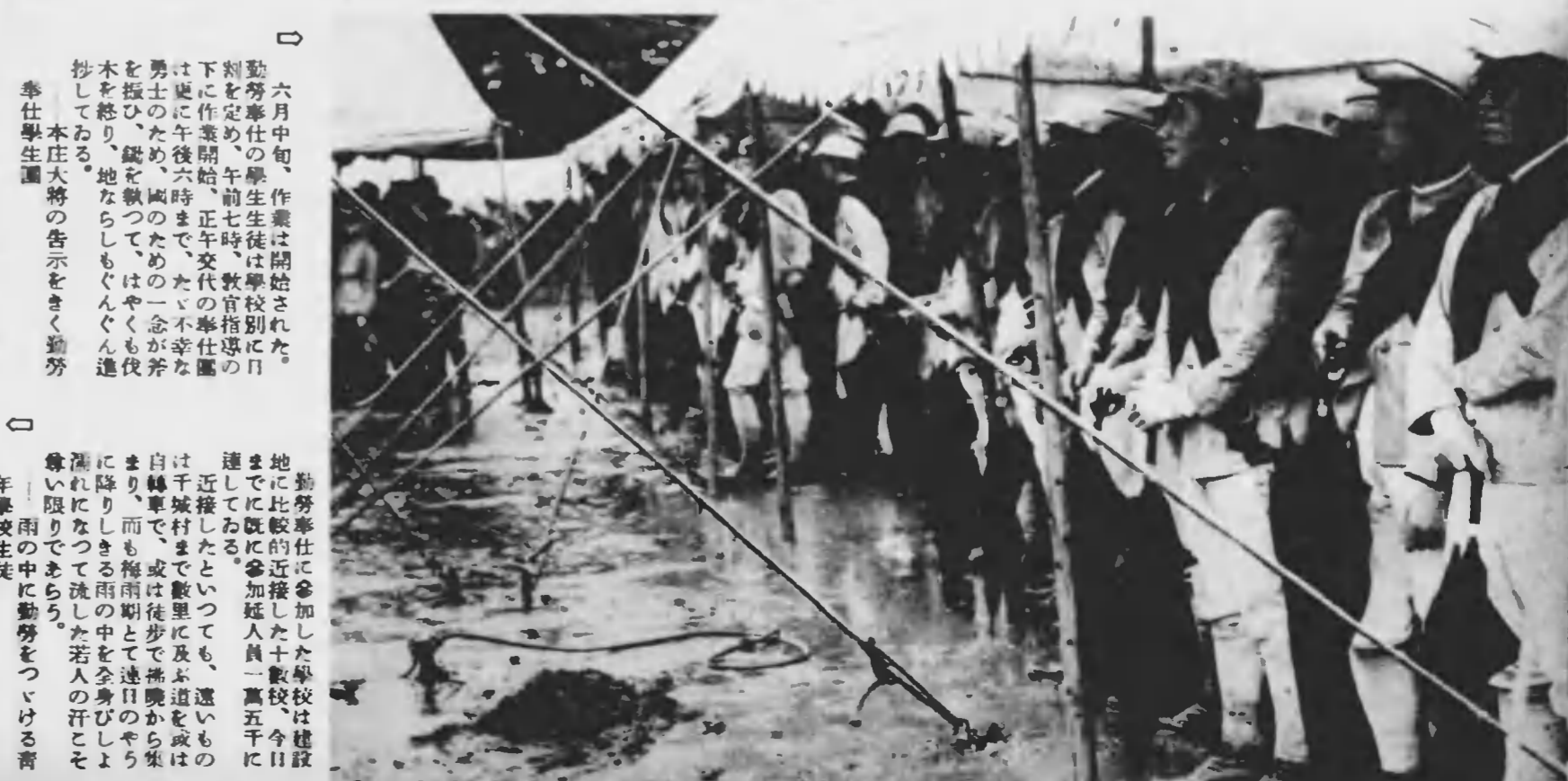
## 傷兵千人療養所



歐米大戦が終つて傷兵軍人の保護問題が、我が國の保護政策にも遺憾なく反映せられた。當時の米國大戦は、我が國の保護政策にも遺憾なく反映せられた。當時の米國大戦は、我が國の保護政策にも遺憾なく反映せられた。...

### 傷兵保護院

多々千葉縣知事の講入式



六月中旬、作業は開始された。勤勞奉仕の學生生徒は、各校別に日刻を定め、午前七時、教育指導の下に作業開始。正午交代の奉仕區は、更に午後六時まで、大いに辛勞を耐へ、雨のなかの勤勞奉仕は、木を切り、地ならし、くぐり、運抄してゐる。...



千葉縣知事多々良忠義の講入式。本庄大將の告示朗讀。...

千葉縣は千葉市の東方約一里、建設地は約五萬坪の美しい松林である。傷兵軍人療養所の建設がここに決定するや、縣下の高等専門學校、中等學校、青年學校學生徒たちの熱心な奉仕精神は、澎湃と湧き立つた。...



勤勞奉仕

加藤恭平



# 朝鮮に志願兵制を生ずる

## 京城陸軍志願兵訓練所



新制定の軍服を身につければ、榮光輝と肩にかゝやく一つ星強く輝かてよ、皇軍新生の若びな。半島二千三百萬民衆のホープ達！

南總督の閱兵をうける、若き半島戦士二百二名、いま大陸を驚倒する日本精神をその鋭い眼ざしにこめ、毅然と整列した頼もしさよ。

撮影 京城日报社



今次の軍備は、その激果の過程に於て、皇軍民族に新史代を創造する偉大な生命力を興へつゝある。然し、この新しき軍備を維持し、向つて急激に整備してゆく歴史的使命の確保、發展は、一に目ざめた皇軍民族の協力な結合の如何にかまつてゐるのだ。

この時にあつて、半島同胞に垂れさす眼は、皇軍を強く、朝鮮臣民の責を承る希望であつた。陸軍志願兵制度の公布されたことは、皇軍一致、皇軍の體面が名譽ともに強化された現れとして、半島はもとより、全日本に民衆的感情が滾々うつたのであつた。

志願兵制度公布と共に、全道から蜂起した志願兵は二千九百餘名を數へ、その中から選定された二百二名の青年達は、六月十五日の入所式を前に、半島同胞の赤誠、愛護の熱情が風をとなつて湧き出す、さかんな歓迎に場を準備し、皇軍第一志願兵として、京城陸軍志願兵訓練所へ入所したのであつた。

第一志願兵を年別に見ると、

二十二年(三三)	二十一(三七)
十八(一五)	十九(二八)
二十二年(三三)	二十一(三七)
十八(一五)	十九(二八)
二十二年(三三)	二十一(三七)
十八(一五)	十九(二八)
二十二年(三三)	二十一(三七)
十八(一五)	十九(二八)

となつて居り、六月十五日、南總督、小嶋司令官他多数皇軍の下に、皇軍訓練所である京城大學講堂で入所式を挙行し、皇軍生は、半島青年の名譽と責任を双肩に擔つて、無敵軍の一員となるべく、教鞭に導かれ、奮起してゐる。われら、全日本青年の希望をかけた半島の戦線に日を待たう。



議は熱き間に、たへよ不動の姿勢と皇軍精神の現れである。入所第一課は、厳しい敬禮の練習から初

感激におのゝく、宣慰の指印をくぐり、いまの今から御國に捧げた身體に、大君の邊にこそ死なう大和魂！



みんな、無敵皇軍の兵士となるのだ。その起居動作言葉は臣民の模範とならねばならぬ。学科では、手紙の書き方も熱心に学ぶ。

故郷からなつかしい便りが届いた。素朴な一字一句にも、名譽のわが子とわかっ感激がこめられて、忠孝の大義に生きる今日の歡喜が胸をつく。

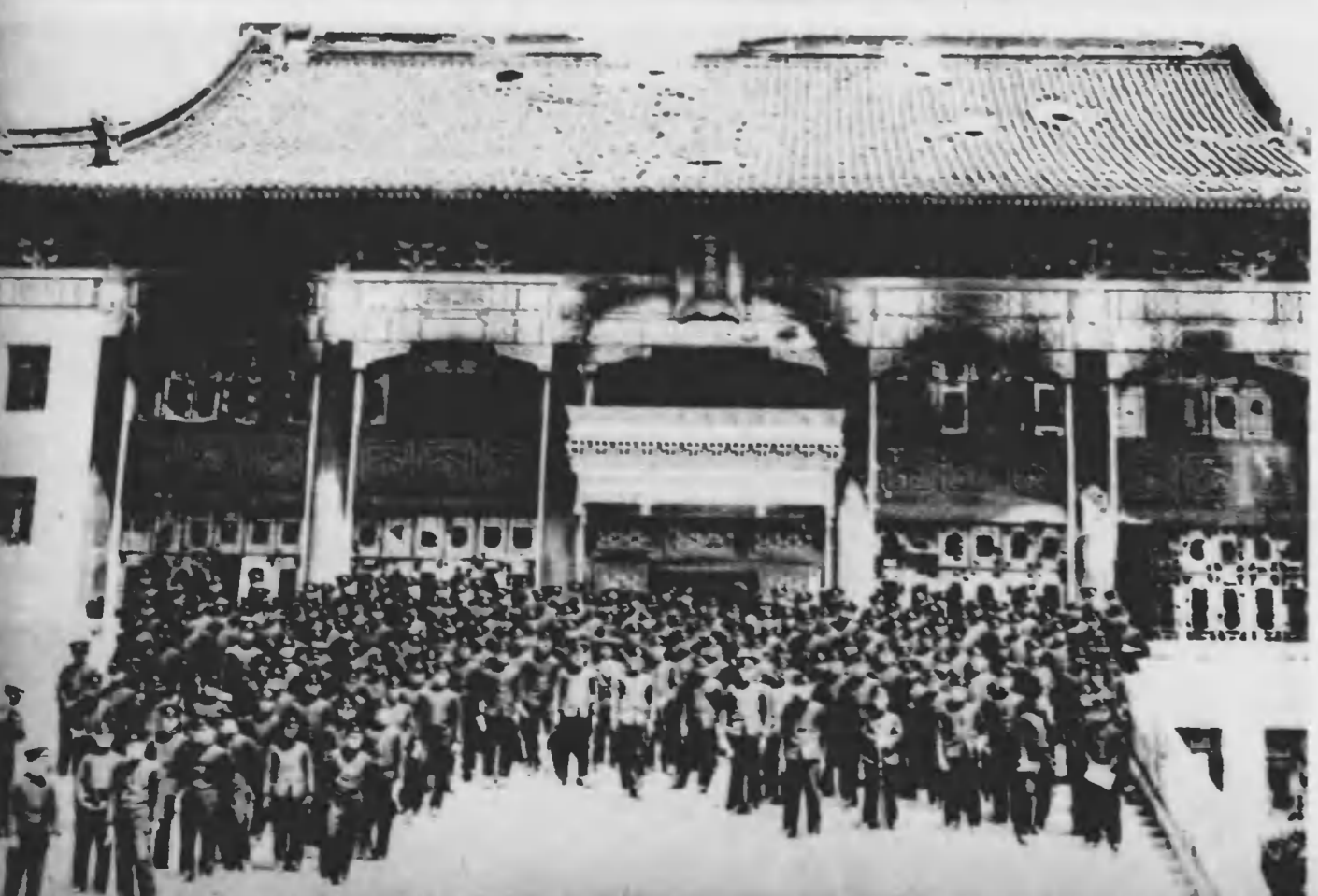
軍服式餐食を、皇軍の一員となつた心構へとし、一上、堅一はいつかめばいひ知れぬ英気が五體の隅隅からわき上つてくる。



「まあ、りっぱになつたこと！」  
薄々しく變つた軍服姿に、面會にきた親兄弟もしげしげと見とれるばかり。もう立派な大日本の干城だ。

はりきり新兵さんの數れを快よい眼りにのせて迎ふ夢路はいづこ。今こそはつきり戦友と呼べる皇軍の戦士大陣か、故郷の山河か。





### 事變下の練習艦隊歸る

海軍省海軍軍務部

戦艦の準備も概しく、演習とは思へぬ緊張に包まれた警手のアリツテ。

去る四月六日横須賀練習艦隊、少尉、中尉少尉、主計少尉各候補生を載せて、晴れの社遊洋航海に就いた高須司令官率下の練習艦隊、八隻の編隊は、三月に亘る事變下の孤獨を耐え、六月二十九日午前八時めでたく母港にその勇姿を現はした。練習艦隊は、折柄の警備を重く担いで出迎へに来た二艘家族連の思はず叫ぶ運送の警備は雨の中から港内一杯に轟き渡った。

かくて兩艦は軍艦の勇姿を現はし、在港船のいとど賑やかな歓迎式に迎へられて指定の洋艦に繋留長途の休息を休めたのであった。

この日、大元帥陛下には平田侍從武官を随員として、高須司令官に副官を御連連にされ、伏見宮博恭王殿下は田中親族府政官を、また軍令部長の代理として占部軍令部長を御連連にされた外、次内海軍大臣、高橋、藤田、百武各軍務官、長谷川廣、須賀守府司令官以下多数、将星は警備上に出迎へ、艦隊一行、逆巻く感謝を越え、艦の如く賑はれた各科少尉候補生の姿を大々

青島神社にも詣で、先軍の志に頷く。治安と平和をとりもとした美しい青島の街が背後に光る。

赤道を越える日の楽しさ、不可思議な赤道祭の神々がまじりあつて艦長から大きな鐘を受取られた。

元氣に接して、満腔の敬意を表し、本航海に於て獲得した貴重な経験を軍艦として非常時局に備へ、大に活躍すべきを訓示せられた。出迎の家族連も乗艦を許され、晴れやかなる未来の展望を語りあつた。乗組の士気は、一層の奮闘を遂げ、艦隊を導くべきなかつた。八十日間の航海中、極度の艱難に奮闘、諸艦を率へ、特に未曾有の事變下に練習艦隊の研究は、一層の奮闘を遂げ、艦隊を導くべきなかつた。シヤムのパンコック港には支那人乗艦の不慮の状態に悩まされたが、友邦シヤム官艦の苦心の警備によつて事なきを得た。また有名なロブリーの象見物も出来、きしい軍艦の中にも、嬉しい思い出の艦隊を訓練したのである。

かくて萬里の波濤を耐え、新緑の母港に歸り着いた彼等は、この非常時局に、意氣圖天、一層の奮闘と努力を以て、いよいよ一人前の士官として將來の活躍期して居る。この歸りに生じた後等こそ、この上もない幸福といへよう、また本軍艦隊の目的は、一層の奮闘を遂げるの故、貴軍なる練習艦隊を終へた新進軍艦の彼等と、無敵帝國海軍に更に増強を加へたことは、誠に喜ばしき次第である。

上海市政府前での記念スナップ。番采りの気持で寫す候補生。

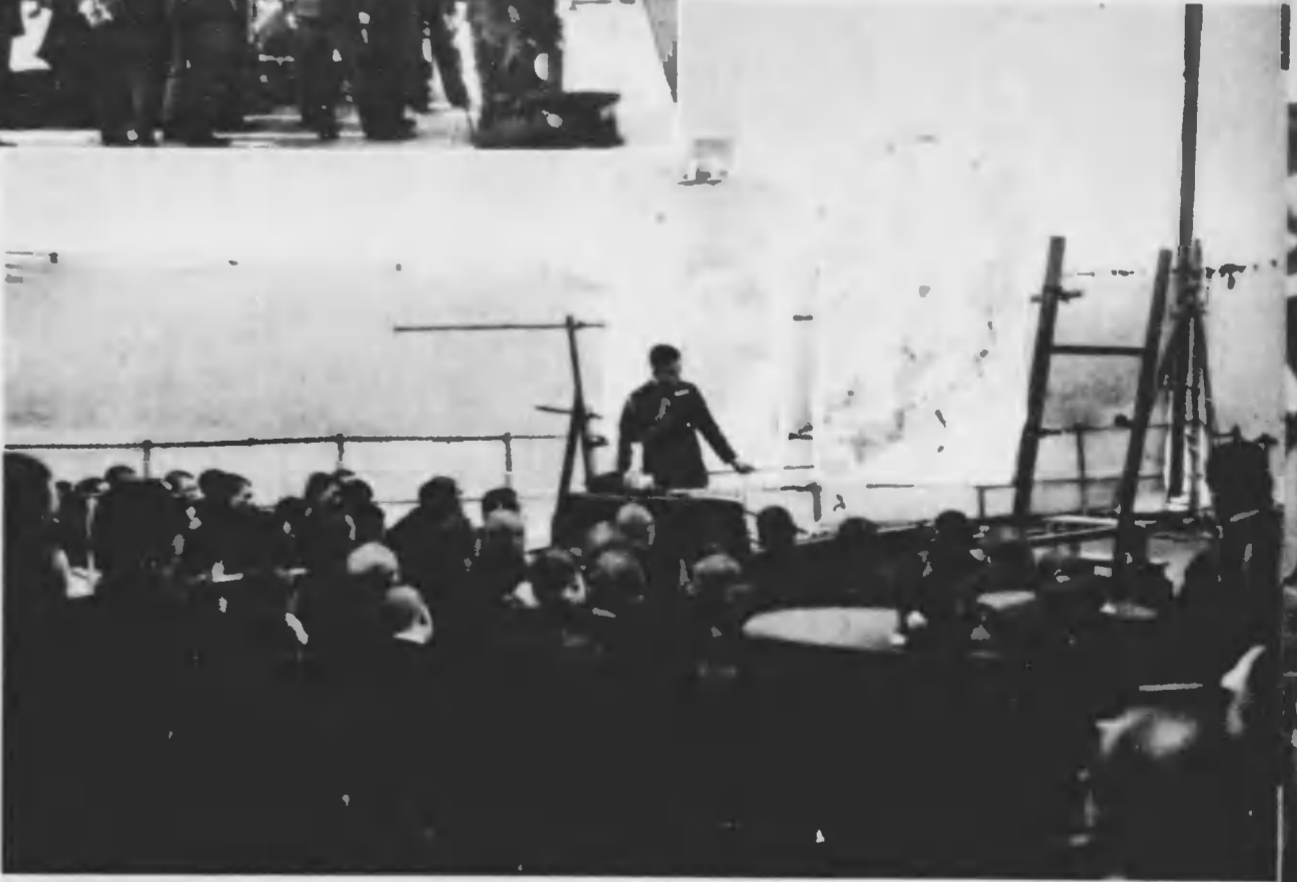
撮影 海軍省



○ 關北の見學、あの激戦はこ  
の地で、わが先軍はこの盛地  
に、あの日に奮戦した當時を  
現地でしみじみと知る。



○ 陸戦隊隊上で自  
ら剣を握つた部隊  
長から當時の戦況  
を聴く、示される  
地圖が生きてすぐ  
目の前に一望廢墟  
となつて廣たはつ  
てゐる。



○ 黃浦江の艦上で海軍武  
官室の沖野武官の講話を  
聴く、武官室の艦上に命  
中する弾丸下で支那側と  
接衝した沖野武官のあの  
頃の話に若い候補生の血  
はおどる。



○ 上海戦中での最激戦地  
廣中路を見學する。記念  
碑指定地と書かれた土壁  
のかけに眠る先軍の靈  
よ！候補生のたむける  
夏草を來たりて享けよ。

内報知新新聞社主催  
富士寫眞フィルム株式会社協賛  
**愛國寫眞懸賞入選**

社頭に映ゆ

東京市京橋區船場六の四 前原 敏通 馬  
尾張町ビーム内  
数多戦歿英霊の中にわが息子も安らかに眠つてゐる。  
皇國の民の感激と名譽を胸いっぱい、靖國神社に参拜することの日、  
老いた父の胸には日露役従軍章と遺族章が光つてゐる。(一等賞)

カメラ	イコフレックス	レフコ	百分の一
レンズ	ツヴァイフェス	フィルム	クロマツ
フィルム	ツヴァイフェス	フィルム	クロマツ
フィルム	ツヴァイフェス	フィルム	クロマツ

◆愛國寫眞◆

愛國寫眞といふ新しい言葉が廣  
く生じた。寫眞を以て報國の一端に  
と、カメラを執つて戦後に起つた  
運動である。  
藝術寫眞の衣を脱ぎ捨て、カ  
メラをベンに代へ、この時局に何  
物かをつかんで見る人に訴へるの  
である。百聞一見にしかず、なら  
文字を讀むのは聞くよりも手  
間とる。常に千讀一見にしかず、  
カメラは今日まで繪畫に挑戦して  
敗れた。千讀一見にしかずれば、  
寫眞は文字に挑め、文學の分野に  
洗を入れよ。ライカ、コンタック  
スは歳年進である。かつての日露  
戦の勇士が今事變に伴を國にさ  
けてしかも社頭懸賞とす。この美  
麗に長期不動の國民の習俗があ  
り、國の日露戦争従軍章は一段と  
光を増して威たり。一等入選、野  
末にまで行きわたつた。野末の  
聲、そのののののののののののの  
等入選、一等入選をかぶつて、餘後  
業に大華を散らす少年、一等入  
選。二天に代りて不義を撃つ。と  
受持の御旗を送つて幾月、突然赤  
十字病院に歸つた。戦傷兵として  
の戦を知つた兒童、結核から買つ  
て渡された花束をか、ハ、オ、ス、  
ズと入氣ない門前に歸還する二少  
年。三等入選、或は竹影に伴から  
の軍事郵便を孫に讀み聞かす老翁  
の姿、選外佳作、いづれもベンよ  
り強い表現である。寫眞寫眞の意  
氣や社、その健全な發達を希望す





心は躍る

東京都台東区 豊島 峯 幸

南京入城の日、夢中の全市は日旗で埋まり、「日本萬歳」「皇軍萬歳」の聲は、熱烈な皇民化運動の渦まく臺灣全島をゆるがした。(三等賞)

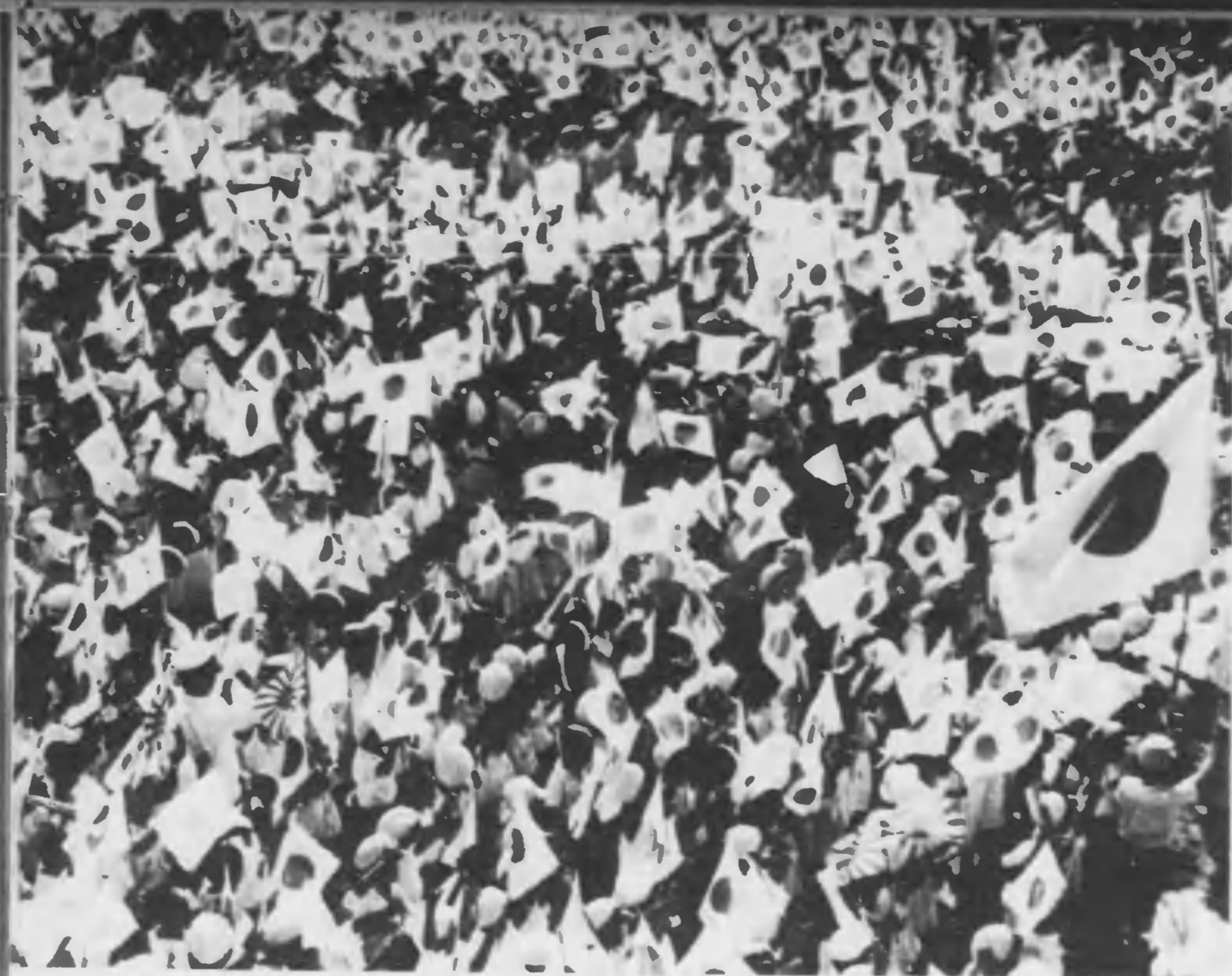
カメラ	キヤノン 135mm F3.5	レヤフター	百分の一
レンズ	キヤノン F4.5	フィルム	黄色三號
フィルム	キヤノン	ネオパン	

お見舞に

東京都日本橋区 大西 熊太郎

赤十字病院に行くのならと、お見舞の花もお姉さんから買って買った、お母さんからお見舞の手紙も渡されました。いま幾月よりかかへる先生、白亜の大きい建物の前におよつとはにかみほしを赤らめた小学生、「さあ、行かろうよ」(三等賞)

カメラ	キヤノン	レヤフター	二十五分の一
レンズ	キヤノン	フィルム	黄色二號
フィルム	キヤノン	ネオパン	



野良のひととき

埼玉県入間川町 高橋利三郎

春の頃、貯蓄報国のかけ聲は野良のすみずみまで行き渡り、お百姓も土が沁み固く、みだりにビラを讀みつづける。(二等賞)

カメラ	キヤノン	レヤフター	五分の一
レンズ	キヤノン	フィルム	黄色二號
フィルム	キヤノン	ネオパン	



神苑の篝火

東京都豊島区 山下 康

奉安下の神苑神社大祭、満洲、支那兩事變に散つた國の雄魂四千五百三十三軒敵かに合祀される招魂の夜、清浄の雨しと、降り、あか〜と篝火は焚かれた。(三等賞)

カメラ	キヤノン	レヤフター	五分の一
レンズ	キヤノン	フィルム	黄色二號
フィルム	キヤノン	ネオパン	

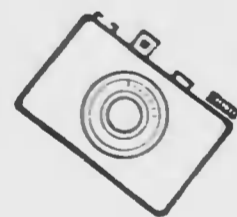


少年研農工

東京都目黒区 野村 秋良

鉄工業職場に青少年工は生産、建設の第一線を擔つてゐる。職場に職員の士を應じ研農工に向つて流す汗は、とりもなほさず新日本への躍進だ。(三等賞)

カメラ	キヤノン	レヤフター	五分の一
レンズ	キヤノン	フィルム	黄色二號
フィルム	キヤノン	ネオパン	



く効で量微く易み服

# ンミタイヴ 研理+

## よへ鍛に夏 め挑に熱暑

體軍を鍛へるものは運動だ  
體力を培ふものは榮養だ!

ビタミンは凡ゆる榮養をエネルギー  
化し、全細胞に潑刺たる活力を與へる

肉體のガソリンだ、何人にも  
必要な力と健康の糧だ!



許特法製國一十界世  
領受賞院士學國帝  
領受賞會學化本日

# RIKEN

店商置主 社有株式 店理代總

DAンミタイヴ純てし製精を油肝  
一品製き高威權るたし集彙出抽を  
用服し定檢に確正を量含に毎球  
微りせ期を確的の果効と便至の  
才揮撥を用作壯強るな大てに量

りあに店薬・球千・球百五・球百・球十圓(袋包)

楽しいひととき  
東京市大森區  
北千代田六八八 金原 雅一  
朝のうづきももうぼんやりと、血色  
もすつかり良くなつた白衣の男子、折か  
らお見舞の東京の坊やと庭に出て、腕か  
し開きしを浴びる心は(佳作)

カキタ	ロイヤル	レニヤ	不明
フレイマ	フレイマ	フレイマ	不明
フレイマ	フレイマ	フレイマ	不明
フレイマ	フレイマ	フレイマ	不明



孫に語る戦線便り  
宮崎市通一丁目 大 陸 隆  
男子が日本と残した母と子供。今男子の故郷  
に送つた手紙を手に老眼鏡をかけた祖母が一生  
懸命をこれでもと強つた孫を前に「お父さん  
やんはネ」と讀んで聞かせる灯影の下。(佳作)

町はづれの路切  
福島市清野町三 片岡 宗介  
一今度のお役に立つ番だ！と力強く言  
ひのこし大陸の聖戦にと夫は出征した。武  
運長久を祈りつゝ日の丸の旗ふつてじつと  
汽車を見送る妻のその子日本帰れ。(佳作)



所 込 申	價 定	所 込 申
東京市大森區 北千代田六八八 金原 雅一	一ケ年(金) 四圓八十錢 一ケ年分未滿配達希望の 方は一ケ年分の割合を以て 前金を添へ御申込み下さ い	東京市大森區 北千代田六八八 金原 雅一

第廿二號表紙  
横須賀軍港に投鐘中の帝國軍艦  
「五十鈴」の艦首を清掃してゐる  
水兵さん。事變下波濤を蹴つて西  
に東に活躍するわが艦艇の勞苦は  
潮にたふされ、風雨に曝された艦  
の南にも思はれる。



昭和十三年度版

# 人絹年鑑

## 目次大綱

第一編 日本

第一章 昭和十二年の業界

第二章 人絹物

第三章 人絹物と東洋市場

第四章 人絹物と支那の消費状況

第五章 人絹物と支那の消費状況

第六章 人絹物と支那の消費状況

第七章 人絹物と支那の消費状況

第八章 人絹物と支那の消費状況

第九章 人絹物と支那の消費状況

第十章 人絹物と支那の消費状況

第十一章 人絹物と支那の消費状況

第十二章 人絹物と支那の消費状況

第十三章 人絹物と支那の消費状況

第十四章 人絹物と支那の消費状況

第十五章 人絹物と支那の消費状況

第十六章 人絹物と支那の消費状況

第十七章 人絹物と支那の消費状況

第十八章 人絹物と支那の消費状況

第十九章 人絹物と支那の消費状況

第二十章 人絹物と支那の消費状況

第二編 世界

第一章 人絹工業の沿革

第二章 輸出国と輸出市場

第三章 各国人絹消費の内容

第四章 人絹消費の世界的動向

第五章 一九三七年の世界人絹界

第三編 關係工業

第一章 ベルブ工業

第二章 世界における木村パルプの生産と供給

第三章 セロファン工業

第四章 製品類

第四編 わが国の人絹創成期の體験を語る

第一章 人絹と自分

第二章 創業當時を語る

第三章 ヴィスコイズ人絹工業の進歩時代を語る

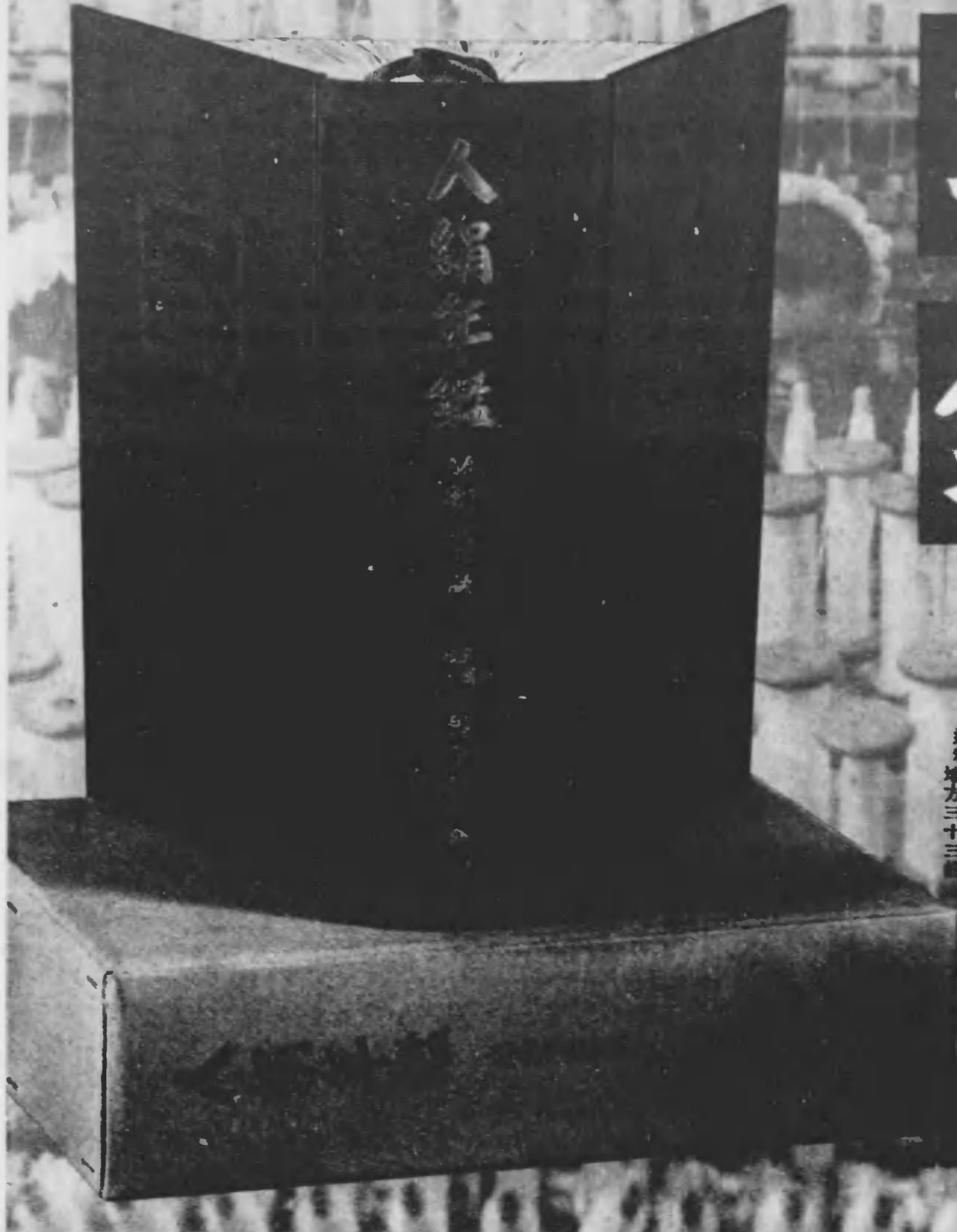
第四章 金子村三吉

第五章 清道三吉

第六章 三吉

附録

一 各国人絹糸布輸入關稅、人絹の國際規格、度量衡各種單位とその換算早見表、各種統計表、人絹各社、材料機械業者表



☆菊判壹千五百餘頁  
 ☆總布表紙特製  
 定價 金 五 圓

發售市內十二區  
 地方三十三區

東京週報 昭和十三年二月十日 第三編 關係工業 昭和十三年七月十三日發行 (編輯) 關水日輝行 第五二號

(本書の大きさは菊判規格A4・「通欄」倍判)